



さて、新年を迎えますと、おそらく多くの方は神社仏閣へ初詣をなさって、「一年の計は元旦にあり」という格言のように、新年を機に新たに様々に向かう一年間の行動、生活の在り方に誓いを立て、神仏にそれが叶えられますよう一所懸命にお願いをなさる、お祈りをされることと思います。

この「祈り」という言葉を語源の上で書物を調べてみますと、「祈り」とは「生きる(い)こと

のです。往々にして人の心は大なり小なり自分の生きる行為、つまり行動を脇へ置いておいて、即神仏のミチカラに頼り神仏に行動を叶えてもらおうとしがちです。しかし、そうではないのです。祈りは自己の力による行動の達成を自身及び神仏に誓い、その達成のために神仏に見守ってもらおうように思いをこめることなのです。勿論これは、年頭等の大きな節目に限ったことではなく、新たに行動を起こす時の全てにいえること

です。そしてその上で、先の「一年の計は元旦云々」の言葉と共によく一緒にいわれるものとして、長続きしない意味の「三日坊主」という語がありますが、そうならないように、祈りと行動を連動させ、日頃から神仏へイノチの守護の感謝の心を捧げつつ、実際に行動を起こして完遂するまで、行動達成の誓いと見守り願いの祈りを重ねていくことが肝心といえます。

現在は、何事も多忙なこと等もあつてか、神仏を拜すことが概して乏しくなっているように見受けられますが、そういう時代であればあるほど、日々の生活において、先人の祈りの語源的意味理解による、祈りに根付く行動の生活の必要性が強く感じられてきます。

その先人に繋がる私達です。しっかりとこの考えに学んで、実行し生活していききたいものです。

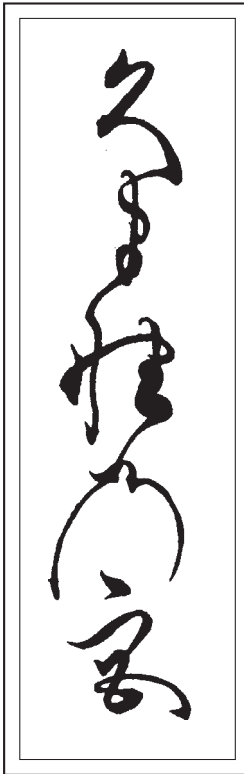
今年も元気で歩み始めましょう。

祈り——新春を迎えて——
熊野大社宮司 熊野 高 裕

新年明けましておめでとうございます。今の世は、新型コロナウイルス感染症の未収束、物価の高騰、地球温暖化による災害の多発等々と、心を暗くする事が次々と脳裏に浮かぶ厳しい世相です。が、そうした中でも私達はそれぞれに工夫し、心が出るだけ明るく穏やかになるように意識して生活していきたいものです。

を宣べる(のり)」、つまり自分の行動を宣言することなのです。自のことを願うのは「依存すること」で、宣言することは「加護を求めること」。自分の生命を感謝し、見守ってもらおう事が祈りの本来の意味とされています。祈りは神仏へ願望を叶えてもらえるようお願いすることではない

です。そしてその上で、先の「一年の計は元旦云々」の言葉と共によく一緒にいわれるものとして、長続きしない意味の「三日坊主」という語がありますが、そうならないように、祈りと行動を連動させ、日頃から神仏へイノチの守護の感謝の心を捧げつつ、実際に行動を起こして完遂するまで、行動達成の誓いと見守り願いの祈りを重ねていくことが肝心といえます。



令和5年1月
第124号
出雲一宮
熊野大社
崇敬会

- 日常の五つの心
1. 「ハイ」という素直な心。
 2. 「すみません」という反省の心。
 3. 「オカゲサマ」という謙虚な心。
 4. 「アリガトウ」という感謝の心。
 5. 「ワタシガシマス」という奉仕の心。

新年を迎へて

熊野大社氏子会会長 石倉憲昭

あけましておめでとうござい
ます。

令和五年の新春にあたり、皆
様におかれましては、輝かしい
新春をお迎えの事と心からお喜
び申し上げますと共に、天皇・
皇后両陛下のご安泰と皇室の弥
栄・ご隆昌をお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も
昨年秋には、終息を見せてまい

りましたが、コロナ禍のもと、
社会情勢は混迷の年でありまし
た。

熊野大社におきましては、氏
子・崇敬者のご理解ご協力によ
り祭典を滞りなくご奉仕する事
が出来ました。

深く感謝申し上げます。
本年も氏子、崇敬者の皆様の
ご多幸とご健勝をお祈りし、新
春のご挨拶といたします。



謹賀新年

令和五年元旦

宮司 熊野高裕

権禰 宜村尾俊樹

〃 佐藤利哉

〃 熊野博元

亀太夫 岩田晋

〃 喜田久美子

〃 安達ひろみ

伶人 長有馬勇

〃 岩田純子

〃 外伶人一同

責任役員 石倉憲昭

氏子会会長 恩田芳和

責任役員 白鹿喜久

〃 神庭昭一

〃 松原吉司

総代会 一同

奉養婦人会 一同

氏子青年会 一同

天狗の会 一同

わらくの会 一同

自警団 清風会 一同

清風会 一同

新年のご挨拶

熊野大社崇敬会会長 岡崎朝臣

令和五年、新玉の年を迎え、
国運の隆昌、ならびに皇室の御
安泰はもとより、氏子、崇敬者、
各位のご多幸、ご発展を心より
ご祈念申し上げます。

昨年は、旧統一教会の問題が
世間を賑わし、連日テレビで報
道され、我々に宗教というもの
のあり方を考える機会となりま
した。

旧約聖書によりますと、唯一
絶対にして全知全能なるエホバ
の神が六日間で天地万物を創造
し、神に似せて人類の祖先アダ
ムとイブを作ったと伝えられて
おります。神はアダムを泥で
もって人間の形に作り、それに
生命の気を吹き入れて生き物と
なし、その肋骨を一本抜き取っ
てイブを作ったということにな
っております。後に、アダム
とイブが神の戒めを破り、「善
悪を知る樹の果実」を食べた為
に罪人として、永遠にエデンの

園を追放され、人類は原罪を背
負ったということになっており
ます。

この神話からは、我々人類は、
神に対してぬぐい難い罪を負っ
たのだから、その罪を償うため
に、神に献身、奉仕しなければ
ならぬという、圧倒的な神の絶
対性と強制性を感じることで
きます。

一方、日本の神話では、『古
事記』の冒頭に、「天地の初発
の時、高天原に成りませる神の
名は、天之御中主神、次に高御
産巢日神、次に神産巢日神」と
造化三神の神が語られ、「むす
び」の働きにより、次々に神々
が生まれます。

伊邪那岐、伊邪那美の二柱の
神様に至って、本格的な生みの
物語としての「国生み」があり、
山川草木を始めとして、万物が
生成されていきます。

日本の神の伝えでは、人も万

物と同じように、神から生まれ
た存在であり、神と人とは血の
つながりあった親と子の関係に
あると言えましょう。

日本の神は、全知全能の神で
もなく、人の煩惱をとがめる神
でもなく、ただ人を「産んだ神」
であり、「産まれた人」は、そ
の命によって神と固く結ばれて
いました。

従って、旧約聖書に書かれて
いるような原罪という考えは、
日本の神の教えには無く、本来
清浄無垢な神から生まれた人の
魂が、罪、穢れによって曇るの
で、禊によって祓うということ
が、古来から一番重視されてき
たように思います。

天皇陛下は新年を迎えるにあ
たって国安かれ、民安かれと国
民の安寧と世界平和を願われて
おられますが、我々も熊野の大
神様、スサノオの神様のご神縁
に今年も結ばれ、祈りも清らか
に本年も報恩感謝の真を捧げて、
日本及び世界の平和に貢献して
参りたいと存じます。

真に有難うございました。

賀正

令和五年 元旦

熊野大社崇敬会

- 会 長 岡崎朝臣
- 副会長 石倉憲昭
- 理 事 川本貢功
- 坂本憲治
- 理事兼監事 幡好明
- 理 事 吉村博勝
- 藤井秀敏
- 小松昭夫
- 青砥誠一
- 石倉哲
- 恩田芳和
- 白鹿喜久
- 神庭昭一
- 松原吉司

令和五年の干支

(皇紀二、六八三年)

癸卯絵馬

みずのとう

お頒ち料

(大)一、〇〇〇円
(小)五〇〇円

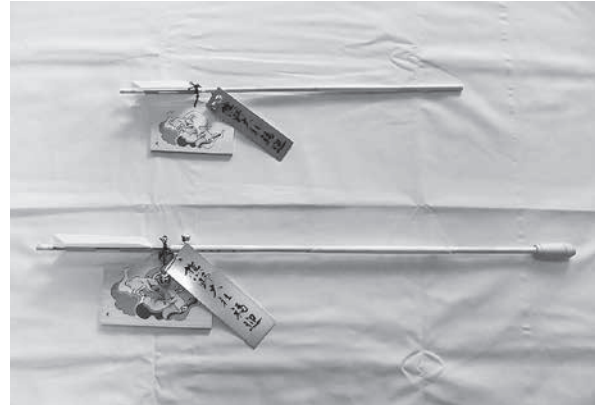
〔今〕年は卯年であります。

清々しく新年をお迎えになり今年も健康で幸福な佳き年でありますようにご祈念の上、御社頭で授与いたしております。

この絵馬は「卯」年に因み大神さまから幸福の縁が戴かれますよう、造形作家の藤田丈氏が「まごころ」をこめて描かれたものでございます。



初詣・皇室の弥栄と世界の平和と人々の幸福のためにいのりましょう。



生々繁栄を祈願

熊手

お頒ち料 三、五〇〇円

〔熊〕手は本来穀物をかき寄せるものであります。その穀霊

を人間の靈魂と一体化して考え、霊をかき寄せ人間の再生をもたらす幸福を得るという意味の縁起物とされています。

当社では生々繁栄、会社発展、商売繁昌、家運隆昌を祈願して授与いたしております。

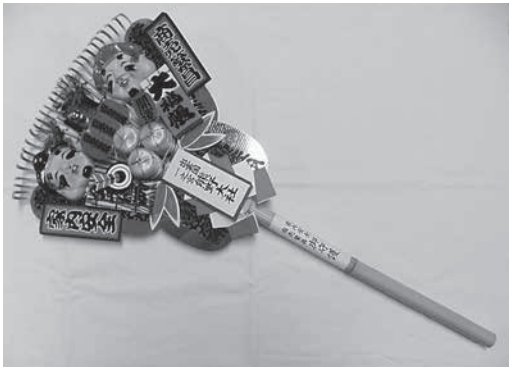
開運招福・厄除 家内安全・商売繁昌

絵馬付

破魔生矢

お頒ち料

(大)大絵馬付 二、〇〇〇円
(小)小絵馬付 一、五〇〇円



〔家〕内安全、商売繁昌、開運招福、厄除を祈念いたしました。癸卯の干支の絵馬付の

破魔生矢

をお受けになり、家庭、会社等にお祀りすることによって、悪魔を打破、邪気を退散させ、大神さまの「みめぐみ」を戴かれご家族の皆様がご健康でお幸福な日々をお過ごし下さい。

縁起物授与所でおわかりたいしております。

福運を迎える

福笹

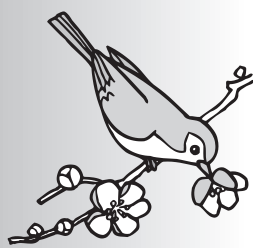
お頒ち料 一、〇〇〇円



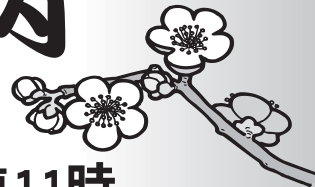
〔家〕内安全、商売繁昌を祈念いたしております。

ご参拝の際お受けになり福運を戴き佳き年でありませうにいたしましょう。

祝祭日には国旗を掲げましょう。



節分祭のご案内



2月3日 節分祭 午前11時
豆撒神事 午後2時

二月三日（節分の日）午前十一時、「節分祭厄除招福諸願成就祈禱祭」を斎行いたします。

節分祭は正月と同じように、冬から春に移り変わる節目であります。心身共にすがしく清らかで、厄難を除き福運を戴くよう大神さまにご祈願をする大切なお祭りです。

この日「節分祭厄除招福諸願成就祈禱」を始め左記の「願いごと」をお取り次ぎいたしますので、「ご祈念」をおさめられまして、しあわせの「ごえん」を授かり健康で幸福な日々をお過しになりますようご案内申し上げます。

午後二時からは、宮司を始め県内の知名人（福男、年男）の皆さんのご奉仕によって豆撒き神事を執り行います。

引き続き各自で新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、お誘い合わせの上、参拝下さいますようご案内申し上げます。

記

一、願いごと

節分祭厄除招福諸願成就・家内安全・商売繁昌・交通安全・会社発展・従業員安全・厄除・縁結・進学合格成就・学業成就・安産・五穀豊穰・病気平癒・身体健康・海上安全・大漁満足・その他ご希望の願いごと

ご祈念料伍千円以上（二つの願いごとにつき）

同封の振替用紙をご利用になりお申込み下さい。又、ご参拝の折、ご社頭でも受付いたしております。

御祭神スサノオノ大神さまが蘇民将来に「茅の輪」を授けられ厄難を打ち払いお助けになったと云う故事に因み、除災招福、心気蘇生を祈願いたしました「節分祭茅の輪」を授与いたしております。



ご祈念のご案内

生命を与えて下さって日々ご守護を戴いている大神さまへ感謝の心をささげ、更に新しい生命力・御霊力を戴き、めまぐるしく変化していく現代社会を心惑うことなく正しく生きぬいていくことが出来ますように、秋のおおみまつりにご祈念のお取次ぎをいたしております。お申込み下さい。

一、ご祈念料 伍千円以上

（二つの願いごとにつき五、〇〇〇円以上です）

一、願いごと

家内安全。商売繁昌。良縁。会社発展。従業員安全。厄除。交通安全。五穀豊穰。安産。病気平癒。進学成就。諸願成就。海上安全。大漁満足。その他ご希望の願いごと。

一、ご祈念を希望されます方は同封の振替用紙に、ご住所、ご氏名、ご年令、ご祈念料を明記してお申込み下さい。

一、ご祈念をしたお守はお送りいたします。又ご参拝の際は受付所にお申し出下さい。

尚、電話、ファックス、又ご希望の日、何時でも受付いたしております。当社へお問合せ下さい。

令和五年癸卯歳

新春初詣

十五万人で賑う

新しい年を熊野大社で迎えるように深夜にもかかわらず多くの方が境内に列を作り、日付が変わる瞬間を待った。午前十時には本殿扉が開かれ、今年こそは良い年となるように祈る姿が後を絶たなかった。

午前六時には新年を祝う歳旦祭を斎行し、国家の繁栄、世界平和、人々の幸福を祈った。

一月二日には舞初祭を斎行し、小学生は「幣舞」中学生は「浦安舞」を数か月ぶりに奉納し、今年一年元気に奉仕ができますようにと祈った。晴天に恵まれ正月三が日の人出は十五万人となった。



神在祭

(十一月三日～十一月十九日)

十一月四日(旧暦十月十一日)

全国の八百万の神々をお招きし、神在祭を厳粛に奉仕した。本社で祝詞を奏上した後、伊邪那美神社へ移動して玉串を捧げた。

前日の十一月三日には伊邪那美神社に設置した神籬(ヒモロギ)に八百万の神々を迎える神迎祭を奉仕し、十一月十九日に神々を送りする神等去出祭を奉仕し、神在り祭の期間を終えた。



八雲町出身

戦没者慰霊

平和祈願祭

(九月二十四日 午前十時)

八雲町出身戦没者の英霊をお慰めし平和を祈願する祭典を八雲町内の神職・住職合同により本年は仏式優先で厳粛に斎行した。

コロナ対策のため本年も参列者を絞り、ゆうあい熊野館多目的広場より慰霊碑を遙拝して執り行った。

導師の読経、斎主の祝詞奏上行われ、参列者が焼香を行い、英霊のご冥福をお祈りした。



熊野大社崇敬会 入会のおすすめ

熊野大神の御神徳を奉戴し、敬神崇祖の誠を致し健全なる国民精神の高揚に努め広く国家社会の繁栄に寄与するを目的とし、その達成のため

- ①熊野大神の御神徳発揚の為祭典、神事、行事及び諸建宇整備と保持に奉賛
- ②会員相互の親睦を計る為機関紙を発行
- ③必要とする事業を行う。

一、会費

個人会費(年額)参千円以上
団体会費(年額)五千円以上
一、待遇

- (イ)会員誕生日は健康と繁栄和楽を祈願、日供祭は全会員の安寧を祈願します。
- (ロ)春秋大祭にご案内します。
- (ハ)新春神迎の「御神符」「千支の絵馬」をお届けします。

(ニ)会員章を差し上げます。
熊野大神さまから幸福のご縁が戴かれますようご入会のご案内を申し上げます。
お知り合いの方々へのご勧誘を申し上げます。

例大祭

(十月十四日 午前十時)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神社役員のみ参列のもと例大祭が厳粛に執り行われた。

巫女舞も大事を取って中止とし、神前に様々な御供えを並べ、大神さまのご守護に感謝する祝詞を奏上するのみのお祭りとなった

その後参列者代表による玉串拝礼が行われ、参列者はそれぞれ神前で深い祈りを奉げ、来年こそは盛大に大祭を肅行出来るよう祈った。

本年も残念ながら神楽の奉納や餅まき行事が中止となった。



鑽火祭

— 亀太夫神事 —
(十月十五日 午前十時)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神社関係者等の少数の参列のみで鑽火祭が執り行われた。

出雲大社宮司家(出雲国造家)の繁栄等を祈念して祝詞が奏せられた。次いで出雲大社より「神餅」が奉獻されて亀太夫が「神餅」の出来栄えを吟味、来年こそは良い出来の「神餅」を奉獻するよう申し立て、火を起こす神器の鑽火器が授与された。

その後出雲大社宮司が百番の舞を奉仕され、大神さまのご神意に叶う神明奉仕を誓われた。奉獻された「神餅」は切り分けて参拝者に授与された。



一月・二月・三月 おまつりの日

一月中

- 一日 歳旦祭
- 二日 舞初祭
- 五日 奉賽祭
- 十五日 月次祭 奉賽祭

二月中

- 一日 早旦祭 奉賽祭
- 三日 節分祭厄除招福諸願成就祈禱祭

当日午前十一時節分祭厄除招福祈禱祭を肅行。

- 十一日 建国記念祭
- 十五日 月次祭 奉賽祭
- 十七日 祈年祭
- 二十三日 天皇誕生日祭
- 二十八日 御狩納祭

三月中

- 一日 早旦祭 奉賽祭
- 十五日 月次祭 奉賽祭
- 中旬 御狩感謝祭
- 下旬 奨学祭 巫女交代祭
- 下旬 立志お祝いの祭

御狩安全祈願祭

(十月三十一日午後二時)

鳥根県猟友会会長細田信男氏をはじめ主に鳥根県東部の猟友会会員が参列、また全国各地から多数のお供えが奉納され、今季の狩猟の安全と豊猟、農作物への鳥獣による被害の減少を祈る御狩安全祈

願祭が斎行された。祝詞奏上の後、今季の狩猟の出来を占う的射が行われた。例年であれば、祭典後、直会が行われ会員同士の親交を深めあうのが慣例であるが、コロナ感染拡大防止のため、昨年につき今年も中止となった。



献 詠

松江短歌の会

バス一台通り過ぎゆく大橋を一人占めして霜月真昼

福島伸子

抜歯する医師の言葉にうながされ吾は大きく息を吐きたり

岩田明美

測候所の立ち入り禁止の湧き水に菱の実みた子はみな同じ罪

新谷国子

藤袴に浅黄斑の飛び交ひて姉亡き家の秋の深まる

古志節子

バス停に朝日を浴びて待ちいるに今日の始まる音の生れゆく

木下みゆき

鳶一羽まさおな空をめぐりるわたしの麦わら帽子を奪へ

弘井文子

魚一尾はねたる湖の光さへ今生のもの眼を凝らす

安部洋子

新穀感謝祭

(十二月二十七日)

午後一時三十分

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、熊野各地区から代表者のみの参列とし、新穀感謝祭が静粛に斎行された。

今年も神前にうずたかく新穀(袋)が積み上げられ、大神さまに豊かな収穫の秋を迎えられたことを感謝し、来年も豊作となるよう祈ることができた。

お煤祓

(十二月二十日)

新年を迎えるための準備が着々と境内で進められる中、今年の汚



れを今年のうちに祓う神事が行われた。

神職が昔ながらの笹竹を使い普段手入れの行きとどかない高所を中心にホコリを落とし、清風会の方々が照明についた汚れをふき取り、殿内を明るくした。

大祓・除夜祭

(十二月三十一日)

今年の間についた罪穢れを祓い、新年を迎えるための準備をする大祓を斎行した。

参加者は来年こそはコロナ禍が収束し、元の健やかなる生活へと立ち返られるよう祈り、大祓詞を奏上し切幣で罪穢れを祓った。

